

青空自主保育「とちのみ」が「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」



子育て大賞の受賞を喜ぶ「とちのみ」のメンバーと、受賞報告を受けた田中町長

妹背牛町内で子育て支援に取り組むグループ「青空自主保育とちのみ」が、2024年度の「ほっかいどう未来輝く子育て大賞」(道主催)に選ばれました。自然の中でのびのびと遊ぶ子どもたちの個性を伸ばし、親同士のつながりを深める取り組みが高く評価されました。

2017年に発足した「とちのみ」は現在、大人7人と6歳までの子ども10人で活動中。子育ての悩みや喜びを共有しようと、月1回のミーティングを重ね、お母さんが安心して本音で話せる場をつくっています。

季節行事や毎月の活動は、メンバーで話し合って決定。果物狩りや雪遊び、梅シロップやみそ作りなど季節の手仕事を通して、楽しみながら自然の恵みに感謝する気持ちを育んでいます。

メンバーたちは「得意なことをテーマに企画する行事が楽しい」「顔見知りだから、保育所に入ってもすぐに仲良くなれる」「お互いの子どもの成長と一緒に喜び合える」などと、グループの大切さを語ります。

3月26日にはメンバーがそろって町役場を訪れ、代表の関舞さんが「とちのみの活動に興味を持ってもらえる機会にもなり、うれしいです」と受賞を報告。笑顔で迎えた田中一典町長は「同世代で子育てをする姿勢が素晴らしい」と、功績をたたえました。

「高齢者福祉に」 高橋弘さんが町に寄付



田中町長から感謝状を受け取る弘さん

創業112年の老舗「高橋商店」(高橋浩一社長)の3代目で、現会長の高橋弘さんが3月31日、「長年、お世話になった町に恩返しをしたい」と、町に100万円を寄付しました。

1913年創業の同社は、米の集荷をはじめ、日用品や園芸用品を取り扱うなど、妹背牛近郊で幅広く事業を展開。一昨年には創業110年の節目を迎えました。この日、町役場を訪れた弘さんは「高齢者福祉に役立ててほしい」と寄付をし、田中一典町長から感謝状を受け取りました。

ザブーンの設定期間延長

また、同日には弘さんの息子で、役場庁舎内に展示している彫刻のオブジェ「ザブーン」の制作者、高橋喜代史さんも来庁。町と協定書を交わし、ザブーンの設定期間を来年3月末まで延長することが決まりました。

喜代史さんは「ザブーン」の反響をいただき、とてもうれしい。また1年間、たくさん方に見ていただけたら」と話しています。

ザブーンの前で

記念写真に納まる喜代史さん(右)

